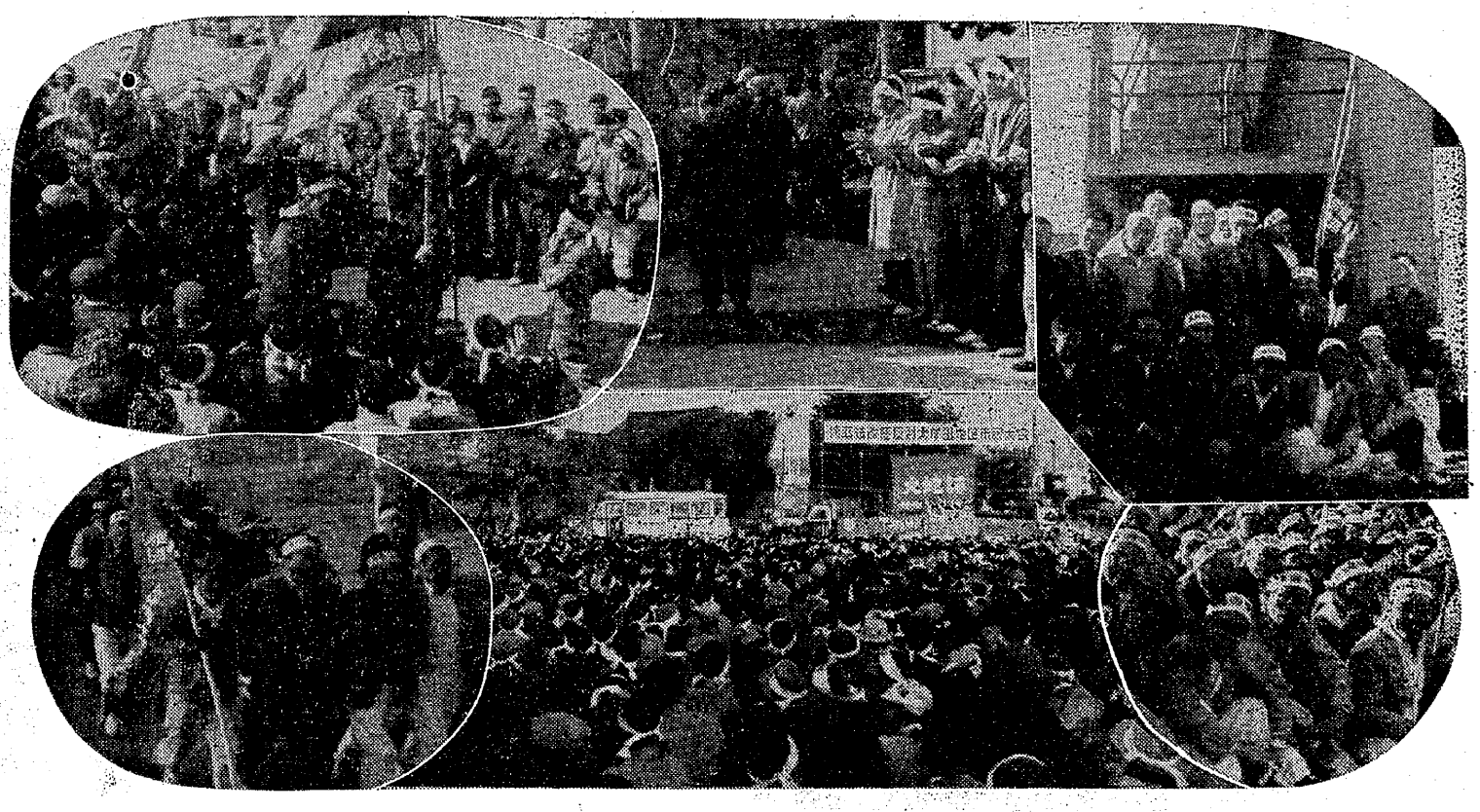


【写真説明】右上＝国鉄職場大会を支援する信号所ビケ隊　中上＝職場をほう棄して会場に入る国鉄組合員　左上＝大会を終り職場に復帰する国鉄組合員　左下＝国鉄職場大会支援に向う三鉱労組行動隊　中下＝四万の労働者がつめかけた警職法改悪反対市民大会会場　右下＝同会場の三川支部行動隊

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
編集兼発行人　堀　政

岸政策の土臺ゆるがす

警職法改悪案に未曾有の統一行動

警職法改悪粉砕をめざす総評第四次統一行動は、十一月五日炭労の二十四時間一斉ストを先頭に二十四時間スト、時限スト、時間内職場大会など官民ほとんどの労働者が立上つて一斉実力行使に整然と突入した。折しも自民党の卑劣きわまる国会会期延長のやり方に労働者の怒りは爆発、未曾有の全国統一行動となつてた。この日大牟田地区では午後四時半から警職法改悪反対市民大会をひらき約四万が笹林公園に結集、全力をあげて悪法粉砕に邁進する決意をたかめた。

炭労24時間スト

炭労では十一月五日一番方から各支部二十四時間の一斉ストを指令九州では七十八山が突入した。この日各支部とも機械の騒音もピタリと止み整然とストに入つた。この日は全国の労働者がそれぞれの規模で実力行使に入り、にくしみと怒りをこめて、反動岸政府の暴挙を粉砕するため、敢然と闘いにたちあがつた。

行動隊、国鉄にピケ

一方、国鉄労組では運転関係を中心に全国六百カ所で三時間の職場大会を決行、大牟田支部でも午前八時三十分から三時間の職場大会をひらくことになつたが、事態の緊急にそなえて、熊本地方本部では三鉱労組にピケ支援を要請してきた。このため各支部は行動隊の精鋭をピケ要員として動員、ようやく明けそめた午前七時には四五〇名が本部前に集合、朝もやをついて駅の要衛に配置についた。表駅には宮浦、三川、本所の一部があたり、運転士室、駅長室、玄関、信号所、小荷物、出札、改札運輸事務所入口、西駅、交換手室電力区、線路通信関係などにピケをはり、港務、興作、本所は表駅に配置され職場大会場になつたたちぼな荘にピケを張つた。国鉄組合員の説得班も活躍してつぎつぎと職場大会へ集めたため、信号所、運転士室などは空つぽとなり、機能は完全にマヒされた。

整然と職場大会

管理局、公安官もついに手も出ず時間待ちのかつこうとなつた。一時は緊張した空気がみなぎり、職場大会場のピケを増員する措置もとられたが、整然とした行動の前に何事もなく職場大会は進められて五時五分の列車で鳥栖へ向つたここには炭労のほか全逓、日通などからピケ隊六百名がかけつけ午前七時半から職場大会をひらいたが、すでに七時二十八分には第一号の列車を停めていた。

十二時三十分、行動隊員の激励と拍手の中に国鉄組合員は職場へ復帰した。この間駅には出入の列車はなく空つぽ、だが列車利用者も警職法反対の職場大会とし、抗議する人もなく協力を示してくれた。

列車は立往生

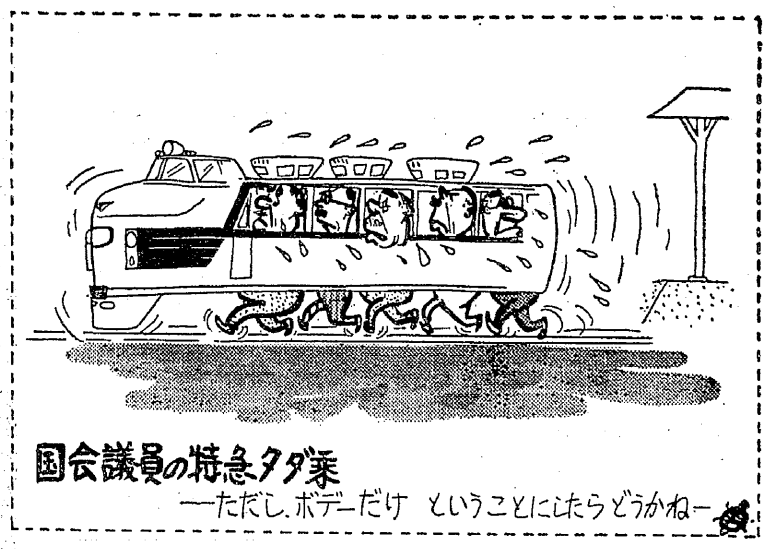
他方、この日は大牟田駅のピケのほかに鳥栖駅にも行動隊員五十名が出動、早朝四時四十分に集合して公安官も動員され、警官の出動も要請してあつたようだが、紛争はなく、ピケ隊は操車、信号所、控室などにピケを張り乗客の説得、職場大会への参加を呼びかけた。ここで各機関車は必ず入替えをするが、職場大会へつぎつぎと参加するため列車は完全にストップ、この日の職場大会は無事に終了した。

笹林で市民大会

五日午後四時三十分からは笹林公園で警職法改悪反対市民大会がひらかれ、約四万人が集つた。いつもの決起大会にはみられぬほどの参加があり、各組合は組合旗、プラカードを掲げて続々と入場した三川支部ではほんものそつくりの仮装警官隊を出場させ入場する組合の先頭へ、これを阻止するため小ぜり合いを演ずるなど、会場から拍手を浴び、警職法改悪絶対許すなとの決意を参加したものに高めさせた。

議長団挨拶、経過報告ののち県共闘会議議長の小宮市太郎氏から「皆さん最後まで闘つてこの悪法を粉砕しましよう」とのメッセージがおくられ、決議文、宣言文を採択して大会を三隊に分け、市中デモに移つた。

すでにつるべ落しの秋の日はとつぷりくれ、夜間デモに入つたが、デモ隊の意気は高揚、堂々と市中をデモつて市民に悪法粉砕をよびかけた。



前進

国民と共にたたかおう

十一月五日、私たちは、会社側からの「政治ストにつき責任追及の権利を留保する」旨の通告書を「受取り拒否」で返上して全山一斉二十四時間ストに突入し、同時に次の二つの行動を力強く展開しました。

一つは、国鉄労組の職場大会決行のためのピケで、鳥栖・熊本・荒尾に各五〇名、地元の大牟田駅に三〇〇名の配置だつたが、荒尾の五〇名と追加動員の一七〇名計二二〇名を大牟田駅に急きよ増員し、ついに三時間の職場大会を成功裡に終ることができたのです。

いま一つは、午後四時半から笹林公園でもたれた「警職法反対大牟田地区集会」への参加で、これも約四〇、〇〇〇名に達する未曾有の盛会となりました。

私たちは、この日の統一行動の果敢さから昭和二十七年当時の「破防法スト」に対する炭労内部の不統一さをまざまざと回想せざるを得ませんが、ひと口にいつて、このことは組合運動の前進を物語つていると考えます。

しかし、この日の統一行動をさらに検討するといろいろなことが新しく把握できるようです。

まず第一に、「列車遅延」という異常な状況下で激しく敢行された私たちのピケに対し、待合室内外の多数の旅客の「非難」がぜんぜんなかつたこと。

次に、スト中の笹林集会が極めて多数に帰したことも特筆すべきであるが、そのあとの市中デモに対してもいたるところで共感的なまなざしを受けたことも事実でしたし、みどりが丘、高田町その他遠隔からの往復徐歩参加をした子供連れの主婦たちの決意には心から敬意を表せざるを得ないものがありました。

また、率直にいつて危ぶまれてもいた国鉄労組の職場大会も、列車遅延のための不参加者を除き予想以上の大集会となつたこと、および久しく沈滞気味の国労の士気が旧に復し、炭労との提携が一段と強化されたことも重要です。

なるほど、これは前日（四日）の「会期抜打ち延長」という暴政に対する国民各階層の反政府的憤激の反映でもありますが、「民主々義」に対する全国民の無言の廃棄と「専制」に対する絶対嫌悪の反発とを確認すべきであります。

そして、労働運動が民主々義を土台とし資本の専制を敵とすることはいまさら言うまでもなく、独占資本が保守政権と一体であることもまた「自明」です。

つまり、私たちのたたかいが、「警職法反対」だけで国民と一致し、つながるのではなく、さらに根本的な「平和」と「進歩」の両面でも一致しなければならないはずです。

これは今後における私たちの「課題」であり、同時に、一切の「企業合理化」に対する真実な「組織づくり」でもあることを、みんなでいま一度じつくり考えたい。

毛沢東は「われわれと協力する可能性のある一切の人とわれわれは協力する義務がある」と述べている。

素早い動員ぶり

王子オルグより現地ルポ

弾圧と分裂という最悪条件のもと支援組合員のピケとともに血みどろな闘いをつづけている王子製紙労組の闘いは、いま全国労働者の注視の中にあるが、炭労からも闘争オルグを派遣、支援にあたつている。三池から永田教宣部長（本所）井上教宣部員（三川）が十一月三日愛知県春日井市の現地へオルグとして派遣された。以下は同オルグからよせられた現地ルポである。

× × ×

三日十二時春日井共闘事務所につき、早々正門のピケに参加した。この工場は軍需工場跡を王子製紙が買入れ、工場を建設したもので周囲約六粁、その一隅に社宅が三百戸、組合員千五十六名、内女子二百名である。

六粁の周囲は約二・五米の壁に囲まれ、その出入口および要所に三十カ所の見張り小屋が組合の手で建てられ、組合員が二交替で徹夜の警戒をやつている。警戒の理由は第二組合員三百六十四名（会社発表）のうち約二百五十名が就業しているのと、下請労働者が約百五十名就業しているのをピケで出入させないため行つている。本日で約五十日間継続にしている。（就業者の数は食事差入れの数をピケ隊が検査することで判つた）。

組織の状況は地域組織は全くなくつい先日社宅内の第一組合員の主婦会が結成されたという状況で、現在外来通勤者はそれぞれ社宅内に宿泊して職場組織でピケ動員をしている。もつと組織をかためようと考えたが、十月二十八日、下請港湾労組（全労）、警官ともみあいピケが二十四時間中強化されている現状では、どうにも手がつけられない。そのためピケの場所で二、三十名の組合員を相手に昼夜二回に学習ということで組織問題を中心に討議を行つた。五日炭労二十四時間ストの日、朝六時爆竹の音で起された。

爆竹は緊急事態発生のとき警戒のピケ隊が打上げることになつている非常招集である。とるのもとりあえず現場につけば社宅に面した桜門から第二組合員約二百名が脱出を行つていた。炭労オルグ団は直ちにピケの先頭に立ち、約三十分もみあいついに門内に押しこむことができた。このとき特に感じたことは、組合員が約十分位の間に全員集合し女子組合員もスクラムを組み阻止の役割りを十分果していたことで、かつて二十八年企闘山の上のピケで主婦会の活動を思い出し、何かしら共通するものを感じた。

天井崩落で即死

四山・鉄柱回収中の災厄

十一月二日午前三時十五分ごろ、四山鉱六百米七昇カツペ払NO四1五岩巻の間で鉄柱回収の作業をしていた田中一海さん（29・四山社宅・カツペ工）は、鉄柱回収と同時に天井が崩落（高さ三米、幅五米、奥行三、七米）で圧死、頭ガイ底骨折、左第二、三、四肋骨折などで即死された。

敬弔

殉職された田中一海氏の霊に対し、謹んで哀悼の意を表します。

三池炭鉱労働組合